

千葉



千葉総局

千葉県庁内中央
ビル1階
(1-17-3)

〒260-8513

☎043(225) 2171

FAX043(225)1782

Eメール
chiba@sankei-soc.
co.jp

通信部

総局 047(365)3150

船橋 047(766)3620

新橋 047(451)4340

新成田 0473(32)5855

新成田 0473(97)7633

新成田 0473(29)2822

成田 0473(24)0957

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

成田 0473(24)2822

盤洲干潟にシオマネキ

草むらで発見



盤洲干潟で見つかり、県中央博物館で保存されているシオマネキ

三重県以西に生息捨てられた？

本更津市の盤洲干潟にまわっている。関係者は、自然観察を訪れた県内の「自然生息していた小学生たちが7月、片方、能性がないわけではないのはさみ脚が大きいことが、捨てられるなどして知られるカニ(シオマネキ)のかもしれない」と話し「ネキ」を見つけた。シオマネキが干潟で見られるのは三重県以西とされ、環境つかつたのは7月31日。悪化しながら生息域も狭く、自然観察に来た小学生ら

が、湿地帯の草むらで動いているのを見つけた。同行していた地元の漁師、金葉野史さん(47)が千葉市中央区の県中央博物館に連絡。博物館の飼育員(22)が千葉県上野研究員42人がシオマネキと確認した。甲羅の幅は約3・5センチ、両足を開いた大きさは約10センチ、はさみ脚は約6センチの長さだった。

甲殻類の分類が専門の飼育員(22)によると、シオマネキは泥状の干潟に生息し、通常では草むらにいることが考えにくいという。飼育員(22)は「シオマネキは盤洲干潟はわずかながら(泥地)もあるため、生息していた可能性がパーセントはないとはいえないが、捨てられた可能性が高い」と指摘する。

シオマネキは生息地として九州の有明海や徳島県の吉野川河口などが知られる。片方の大きさは

さみ脚が特徴で、スパーンのような形状のもう一方の小さなはさみ脚で干潟の泥をすくう。泥の中の養分を食べている。

金葉さんは「何年もの干潟を歩いているが、見たことがないカニで驚いた」と不思議そうに話している。

届出申し込み

0120-81-2950

配達・受付

0120-34-4646

印刷・発送

03-3275-8864

Web

http://www.sankei.co.jp/chiba/chiba.htm

組なみの